

体づくり運動における保健体育教師の意識変容に関する事例的研究

問題の所在

体づくり運動領域の課題

- ・学校現場での教師の知識不足や共通認識の欠如
(高田・筒井, 2017)
- ・授業内容の曖昧さと教師の「内容理解の不十分さ」
(清田・本多, 2019)

- ・単元実施の困難さ (鈴木・三宅, 2022)
- ・学習指導要領解説で示されたねらいや内容と乖離した授業展開
(白石ら, 2021; 篠田, 2023)

中学校及び高等学校現場に多くみられる (白石ら, 2021)

教材を実践する保健体育教師を対象とした研究の蓄積が必要

目的

保健体育教師の体づくり運動への意識が単元での授業実践を通して、どのような過程で変容するのか、しないのか。
また変容の契機や要因は何であることを明らかにすること

方法

ナラティブ・アプローチ

対象者：保健体育教師1名 (教師歴10年)

対象授業：中学校1年生 (男女共習授業)
体づくり運動領域 (6時間単元)

データの収集方法：9回の非構造化インタビュー (約225分)
フィールドノーツの記録 (15623字)
授業資料のドキュメント

データの分析方法：ナラティブ・アプローチの理論的枠組み
教師の意識変容プロセスを分析した
田中 (2011) の分析観点を援用

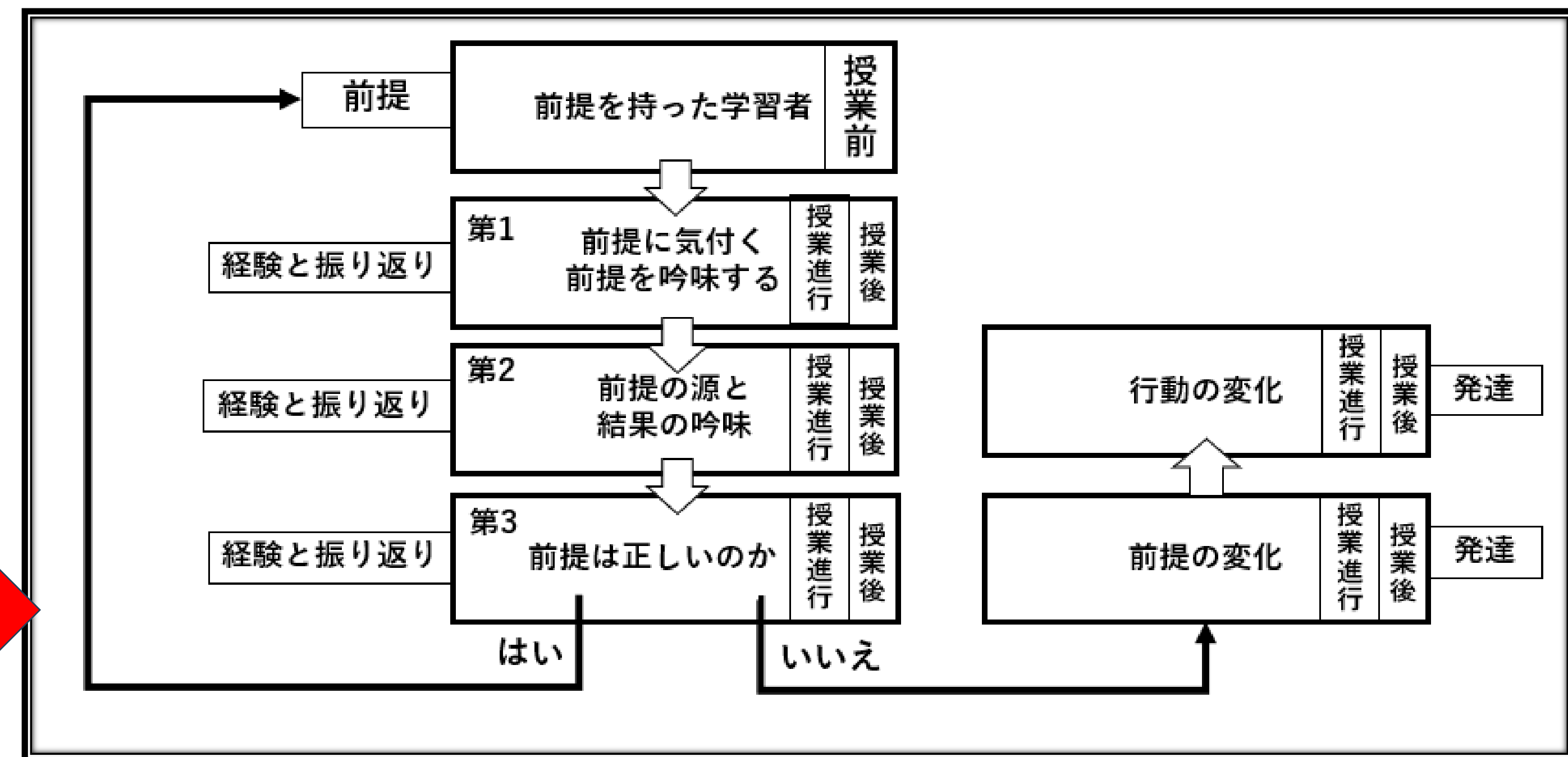


図1. 分析観点 (田中 (2011) を参考に筆者が作成)

結果と考察

単元前

「正直、やってないですね...実施できていないのが正直なところです。」

「...どうやっていいかも分からないし、そもそもそれを入れようっていう意識もあんまりない...」⇒**前提**

「...本校では伝統的にやっていない慣習があったんじゃないか...」

「...理解むずかしいですね。」⇒**前提**

体づくり運動に対する目標や内容への知識が不足していることや単元での授業実施に対して積極的ではないことが語られた。

体づくり運動の実践に関する重要性や単元での授業実施を意識していない。

変容

単元後

「体づくりっていうと、体操っていうイメージがあった。体動かしてどうするかってイメージがあったんですけど...何のためにこの運動をするのか、ねらいに応じた運動ってなんなのか、どんな話し合いさせたらおもしろいかなとか、何か、そんなイメージ変わりましたね...。」
「...なんでやる必要があるのか、よくわかりましたね。」

体づくり運動に対する目標や内容への理解、単元での授業実施に対して積極的になっていることが語られた。

授業イメージを構築させ、単元設定の方向性や目標、内容への理解から、単元での実践に関する重要性を認識するといった意識に変容

1時間目終了後

「どうしても教師側が体操させるとか、この動きはこれが正しいとか技能的なものを見てしまう...」⇒**前提に気付く**

「...やったことない教材と慣れていない分野やったので、まあまあ大変でしたよ。やっぱり...」⇒**前提の源**

2時間目終了後

「...前提として、上手い下手じゃないよやったりとか、細かい技能見るんじゃないよっていうのが私の中にも生徒にもあったので、だからその気持ちはありましたね。何か、もう1から10まで教えて、それをできるようにさせなあかんっていう感じがやっぱりほかの種目であったりするんですけど...そうですね、楽しめましたね。」⇒**結果の吟味**

3時間目終了後

「やったことがない内容だったので、何か、ゼロになるんちゃうとかか、生徒の反応が、ね、乗ってこうへんかったらどうしようとかはすごくありましたね。」⇒**前提の源**

「新しい、今までになかった雰囲気を感じれたかなってのは正直なところありますね。」⇒**結果の吟味⇒前提は正しいのか**

4時間目終了後

「だからこのねらいと動き、だから、言ったらこれなんかもさ、巧みでもいけるし、力強さとかでもいけるやん、言ったら。この姿勢とかも。だから、ねらいは何かになって考えながら、いろいろやってみよう、ですね。」⇒**前提の変化**

5時間目終了後

「これまでどうしても教師主導で進めてきたんすね (**前提に気付く**)。今回は、生徒主体で。あとは、生徒の動き方によって、どこであのビデオ見せようかなとか、どこで切ろう、タイムマネジメントのところでもよつとこうまくできれば良かったかなっていいますかね。様子は、まあまあ、生徒同士で考えなあかんっていう、若干プレッシャーはあったと思うんで、それに向けて、いろいろペアで活動してくれたかなっていうところですね (**前提の源と結果の吟味**)。で、意外と女子を中心に創造的なところが見られたってのが意外と良かったなってとこですかね。あとは遊んじやう男子とかをどこまで、どこまでこうね、泳がすのか、求めるのかってとこはちょっと、これから経験する中で考えていかなあかんってとこでしたけどね (**前提は正しいのか**)。」

自己の「前提」としての意識に気づき、
その意識に疑義が生じていく過程 (前提に気づき、吟味する)

前提に対するジレンマを抱くことが重要な契機

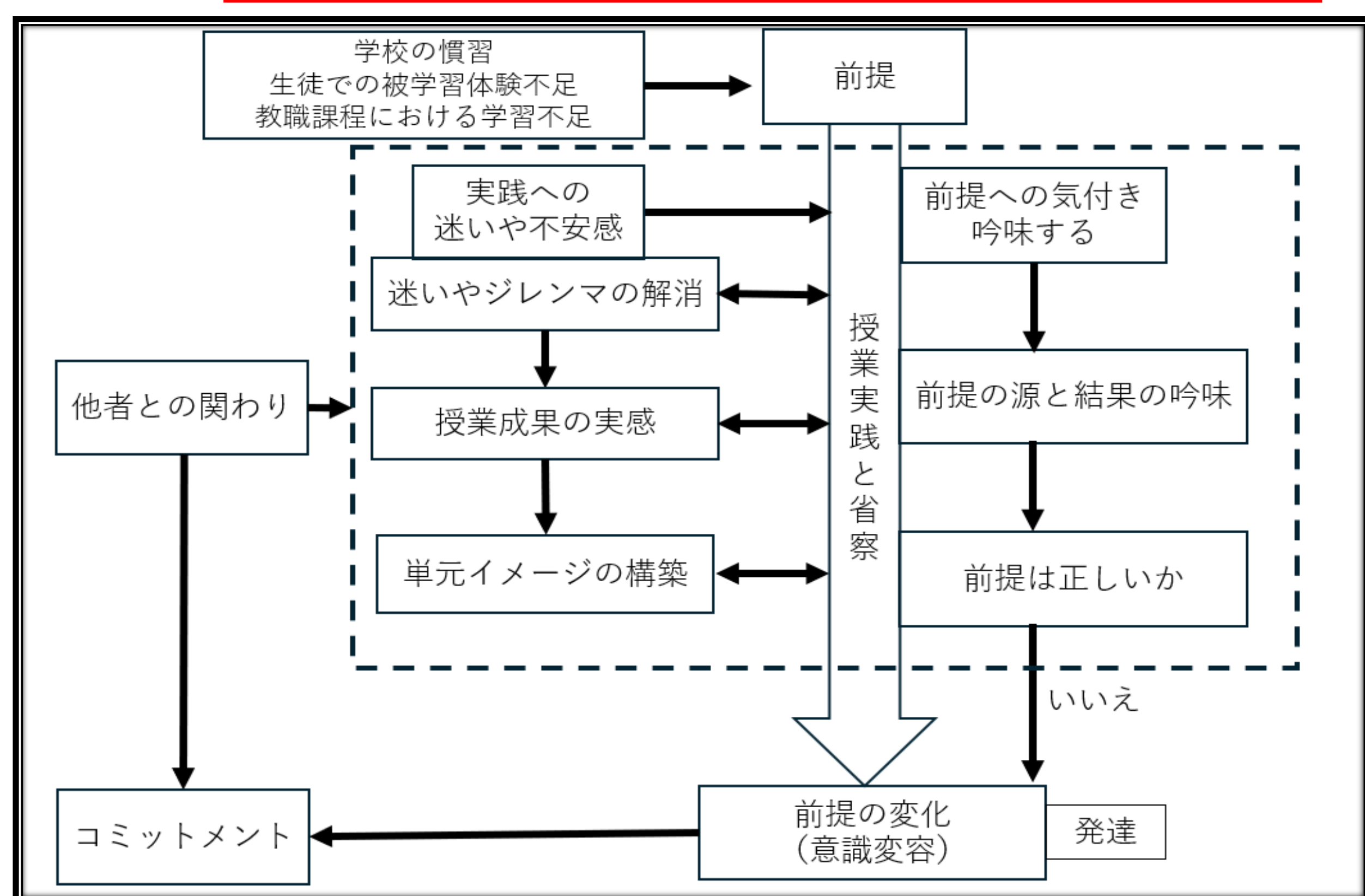


図2. 「体づくり運動への意識変容過程」のモデル

生徒の様子から授業成果を認識していく過程
(前提と結果の吟味、前提は正しいのか)

**授業中の生徒の様子から、
授業成果を実感し、手応えを感じていくことが意識変容の要因**

周囲との関わり(支援など)

「ほんまに、ほかの学年向けの教材とか、何か、あったらもっと知りたいなっておっしゃってましたね。」
「特に人間関係づくりとかいうところで、早い段階で、4月の早い段階でできたらなお良かったねみたいなことは話していました。」

**授業実践の成果が周囲の保健体育教師に肯定的に受け入れられたことも
対象者の意識変容を促し、体づくり運動の単元実施への動機づけを高めた。**

まとめ

授業実践過程を通じて、体づくり運動に対しての知識が深まり、授業イメージを構築し、その領域・単元での実践に関する重要性を認識するといった意識変容が生じることが明らかとなった。意識変容の契機は、これまでの意識に疑義を感じて、生徒の様子から授業成果を実感し、疑義を解消していくことであった。また意識変容を促した要因は、「他者の関わり」と示唆された。